

04・いまは会えない

〈シチュエーション〉

本編03の数時間後。9月3週目、12時ごろ。学校の昼休みで、場所は主人公の教室。主人公のクラスに、うたが訪ねてくる。

主人公が『赤い葉』を持ち去った事に気づき、理由を聞きに来たのである。

そこでうたは、近くにいた主人公のクラスメート『東乃 マリ』に声をかけ、主人公を呼んでほしいと頼む。

SE1 教室の環境音

【最初から最後まで流す】

【繰り返し流す】

【0―7秒ほどまで流して『マリ』のセリフがフェードインしてくる】

【その後、ごく小さな音量で流し続ける】

【トラック終了まで流し続ける】

SE2 マリの足音

【最初から最後まで流す】

【だんだん近づいてくる】

【次の『マリ』のセリフと同時に流す】

●【正面】 200センチ～50センチ 上50センチ

●※だんだん近づきながら※ 話す

〈マリ〉

■自分の席に座っている主人公の方へ近づいてきて、話しかける。
立ったまま、うたが来ている事を伝える

【『嫁』Ⅱ『うた』】

ねえねえ。

おーい。

嫁。嫁が来てるよう？」

〈主人公〉

「えっ……？」

●【正面】 50センチ 上50センチ

〈マリ〉

■主人公が不自然な反応をするので、不思議に思う

「**きよとんと不思議そうに**」

あんたの嫁ったら、宝生（ほうしょう）さんしかいないしよ。
お昼食べる約束とかしてんじゃないの？」

〈主人公〉

「えっと、あの……」

〈マリ〉

「んー？」

〈主人公〉

「大変お手数なんです」

〈マリ〉

■主人公が、クラスメイトである自分に、不自然に敬語で話すので、ますます不思議に思う。

なんとなく『ただ事ではなさそう』感を察するが、まだきよとした感じで
「うん」

〈主人公〉

「わたしのことは『居ない』って伝えてもらえないでしようか……」

〈マリ〉

「【すつとんきように。ますますきよんとして】

……あえ？

【怪訝に思いつつも、心配そうに】

何（なに）。急にどうした。

もう『居るから呼んでくるわ』って言っちゃったよ？」

〈主人公〉

「そ、そっかあ……」

●【正面】 50センチ×15センチ 上50センチ×0センチ

●※ぐいっと近づいて※ 話す

〈マリ〉

■ 立ったまま、かがんで距離を近づける。

『少なくともただ事ではない』と理解し、空気を読んで、ひそひそ声になる

「【赤文字部分を『ひそひそ声』で。

『理由を説明してくれ』という感じで」

……どういう事？

※一呼吸あけてから※ 話す

喧嘩でもしたん？

何（なん）でわざわざ、居ないフリなんかしたいのさ。

※一呼吸あけてから※ 話す

「ハッと気づいた感じで。

『わざわざ自分に頼んで呼び出す時点で、妙だなと思っていたが……』

『おいおい、マジかよ』という感じで」

つかさ、こういう時普通、まずメッセで呼ぶよね。

……まさか返事してないの？」

〈主人公〉

「手短に話すので、聞いてくれますか？」

●【正面】 15センチ〜50センチ 上0センチ〜50センチ

●※一度離れて、元の位置に戻って※ 話す

〈マリ〉

■主人公が否定しないうえ、気弱そうな割に意志が固く、真剣なので、腹をくくる。

主人公の前の席の椅子を引き、座って『聞いてやるぞ』という意味を暗に伝える。

『面倒な事に巻き込まれた』という気持ちはない。

『とにかく仲が良く、いつもイチヤイチヤしている事で有名な主人公とうたのカップルに何かあったらしいので気になる』『何かにつけミステリアスなうたの事が気になる』という野次馬根性もある。

同時に生来の人のよさが出て『なんか小動物系の主人公が、『とにかくでかくて強い』うたに、なんらかの反抗を示しているらしい。理由もなくそういう事をする子には見えないし、弱そうすぎて心配だから、話位は聞いてやろうか』と思っている

「……」

【声のトーンを落として、腹をくくった感じで】

おう。聞こうじゃん」

〈主人公〉

「うたちゃん、実は昨日まで持病で学校をお休みしてたんだけど……」

SE3 マリが椅子に腰かける音

【最初から最後まで流す】

【小さめの音量で流す】

●【正面】 30センチ

〈マリ〉

■ここから、主人公の前の席の椅子に腰かけて話す。

その件については知っていたので、頷く。

マリにとってうたは『友達の友達』くらいの間柄なので

「『ああ、その事か』の『ああ』」

ああ。

何（なん）かしばらく休んでたらしいね。うちの友達も言ってたわ。

持病あるとか大変だね。

何（なん）かあんなでつかうて強そうだからさう。

勝手に『学校絶対休まない』みたいなイメージ持ってたわ」

〈主人公〉

「実は、今もすごく無理してて」

〈マリ〉

「【真剣に驚いて。まさかそんな大ごとになっているとは思っていなかったの
で】えっ!!」

●【正面】 15センチ

■大きい声を出してしまって『しまった』と思う。

それから、うたに対して、樂觀的なイメージを持っていた事を反省する。

また、周囲に聞かれてはいけない話だと理解する。再びひそひそ声になる

【赤文字部分を『ひそひそ声』で。

真剣に。もう野次馬根性はない】

……**どういう事**」

〈主人公〉

「私はその、無理を、止めさせたいと思ってて」

〈マリ〉

「……うん」

〈主人公〉

「その為には、今会っちゃいけないといっていますか……」

〈マリ〉

「【怪訝そうに。話が見えないので】
うん？」

〈主人公〉

「わかんないですよね……」

〈マリ〉

「【困惑しつつ、真剣に話を聞く意思を示す】
えーっと。ちよつと待って。一旦整理させて。

【赤文字部分を『ひそひそ声』で。
真剣に。もう野次馬根性はない】

まず、宝生さんは持病の治療で一週間休んだ。

今日から学校来てるけど、ほんとには今も無理してて、あんたはそれをやめさせたいな
くって思ってる。

ここまでではわかった。

でも、何（なん）で今会わない事が、宝生さんの健康と関係あんの？
ちゃんと理由があんなら、本人に言えばわかってくれんじゃないの？」

〈主人公〉

「実は、わたしなりに、色々考えがあって」

〈マリ〉

「うん」

〈主人公〉

「でも、うちちゃんにそれを言うのと、反対されそうっていうか。
少なくとも、あんまり喜んではもらえないというか……。

だから最低限、今は時間を稼ぎたくて……。

放課後、くらいまでは、やり過ぎしたいというか」

●【正面】 30センチ

〈マリ〉

「『全く何もわからん』という感じで
はあ……」

〈主人公〉

「わかんないですよね……」

〈マリ〉

「【困惑して。また、素直に認めて】
……うん。よくわからん」

〈主人公〉

「……」

〈マリ〉

「【真面目なトーンで】

でも、あんたがマジっぽい事はよくわかった」

〈主人公〉

「……！」

〈マリ〉

「けど『やっぱ居なかった』って伝える訳にはいかないから。

【優しく。

『この場は味方してあげるから、あとは自分で何とかしろよ』と言っている感じで」
……何（なに）か宝生さんに伝言は？」

〈主人公〉

「……『ごめんね。今は会えない。放課後、うちでゆっくり話したい』って、伝えてくれますか？」

〈マリ〉

「『』部分を、真面目なトーンで復唱する」

『ごめんね。今は会えない』

『放課後、うちでゆっくり話したい』……ね。
わかったよ。

言ってくる」

〈主人公〉

「……ありがとう！」

SE 4 マリが主人公の肩をポンと叩く音

【最初から最後まで流す】

【次の『マリ』のセリフと同時に流す】

●【正面】 50センチ 上50センチ
〈マリ〉

■主人公の肩をポンと叩く。それから立ち上がる

【「淡々としたトーンだが優しさが感じられる声で」

まあ、頑張れよ。放課後」

SE 5 マリが椅子から立ち上がる音

【最初から最後まで流す】

【小さな音量で流す】

SE6 マリの足音2

【最初から最後まで流す】

【だんだん近づいてくる】

【0—5秒ほどまで流して次の『マリ』のセリフ】

●【正面】 1000〜どんどん遠ざかる 上50センチ

●※だんだん遠ざかりながら※ 話す

〈マリ〉

■主人公のもとを去り、うたの方へ向かっていく

【『うたに話しかける。『あんさー』 Ⅱ 『あのさあ』】

おーい。あんさー」

ここでフェードアウトして終了。